



豊岡市の人口動態分析

中嶋 圭介

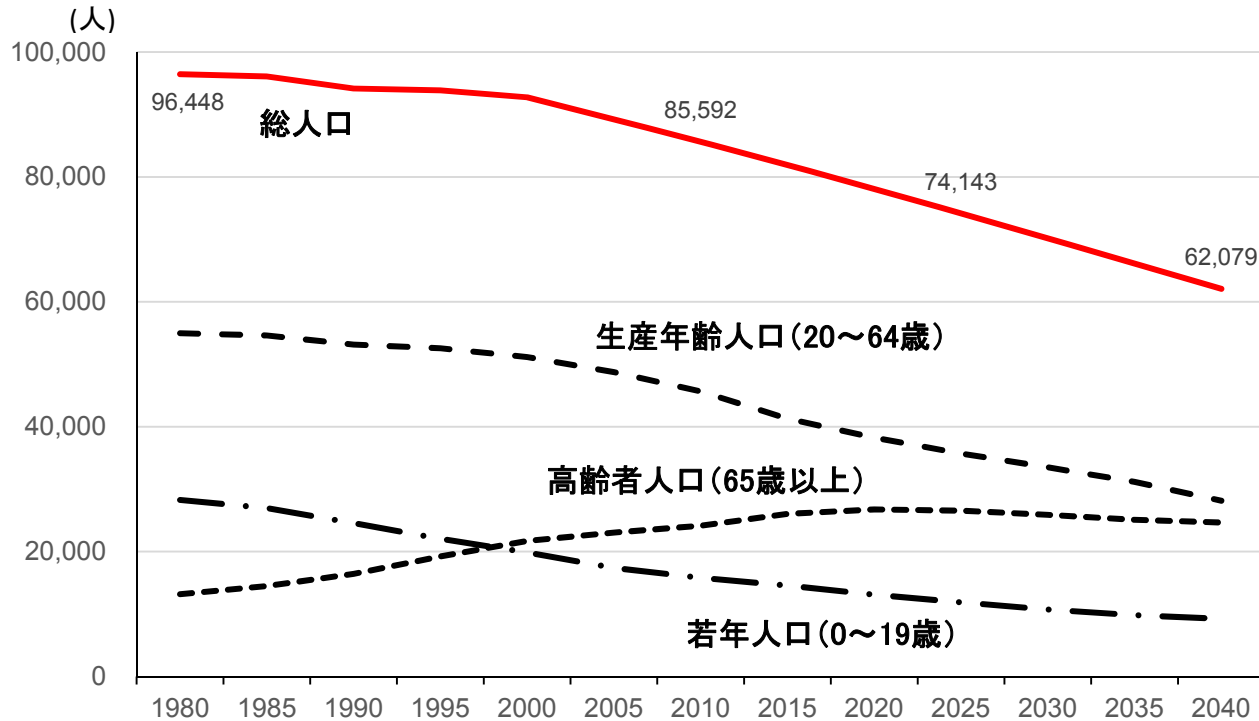
神戸市外国語大学 外国語学部 准教授
米国地球高齢化研究所 非常勤上級研究員

第1回豊岡市地方創生戦略会議
2015年5月15日

1. 豊岡市の高齢化

1. 総人口の推移

豊岡市：総人口と年齢3区分別人口の推移(1980～2040年)



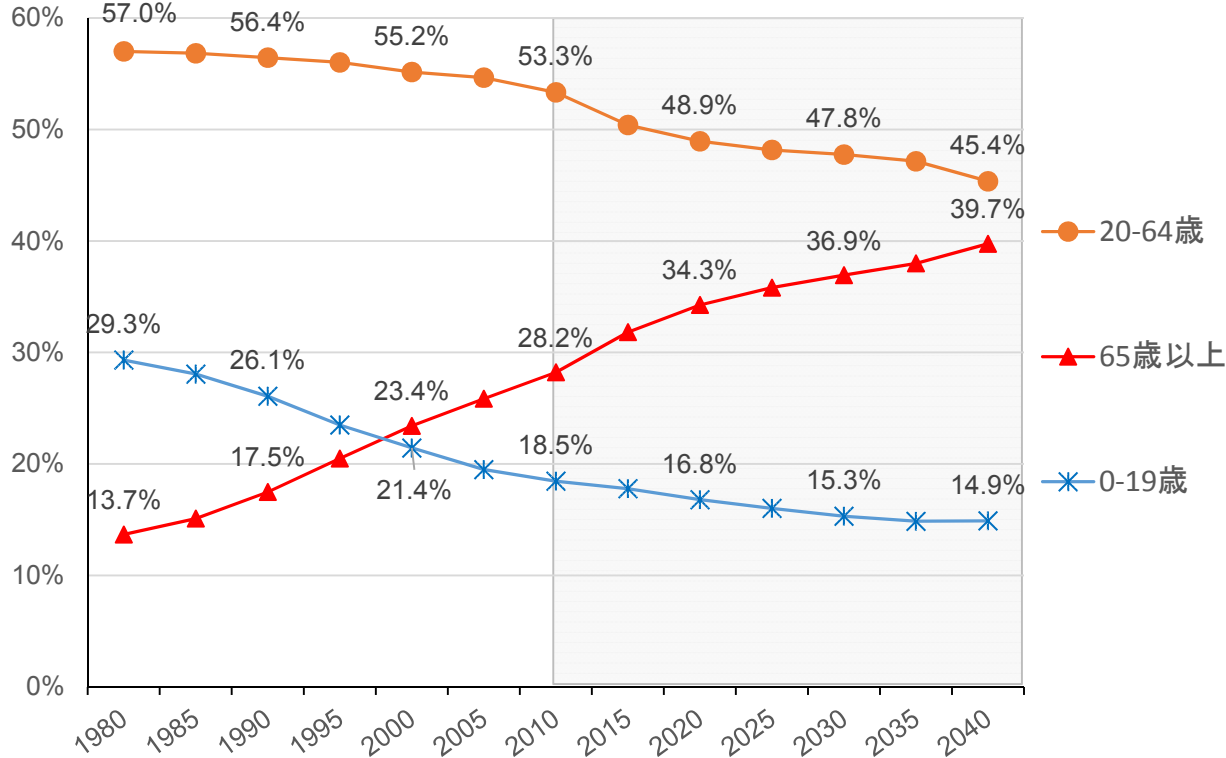
- 総人口は1980～2010年に約1.1万人(総人口の-11.3%)減少。減少ペースは今後加速すると見られ、2010～2040年に約2.3万人(総人口の-27.5%)の減少が見込まれる。
- 1995～2000年に、高齢者人口が若年人口を上回った。
- 2045～2050年に、高齢者人口と生産年齢人口がほぼ同数に。
- 向こう十数年間、若年・生産年齢人口の減少が著しい中、高齢者人口の中で特に後期高齢者(75歳以上)の増加率が著しい。

年	1980	1995	2010	2025	2040	累積増加率		
						2010-25	2025-40	2010-40
総人口	96,448	93,859	85,592	74,143	62,079	-13.4%	-16.3%	-27.5%
0-19歳	28,281	22,047	15,795	11,877	9,248	-24.8%	-22.1%	-41.4%
20-64歳	54,981	52,582	45,647	35,711	28,157	-21.8%	-21.2%	-38.3%
65歳以上	13,186	19,230	24,152	26,555	24,674	9.9%	-7.1%	2.2%
75歳以上	5,020	8,272	13,465	16,014	15,496	18.9%	-3.2%	15.1%

(出所)総務省統計局「国勢調査」, 国立社会保障・人口問題研究所(2013年3月)

2. 年齢構造の推移

豊岡市: 年齢別人口割合の推移(1980~2040年)



- 65歳以上の高齢者率は、2010年の28.2%から2040年には39.7%になると推計されている。
- 高齢者サポート率の低下が著しい。2010年には1人の高齢者を生産年齢人口1.9人で支えていたが、2040年には1.1人(ほぼマンツーマン)で支える年齢構造に。
- 合計サポート率は、着実に低下。2010年には高齢者・若年人口を合わせた被扶養者1人を生産年齢人口1.1人で支えていたが、2040年には0.8人で支える年齢構造に。

ポイント

豊岡市にとって2つの歴史的大きな転換点。

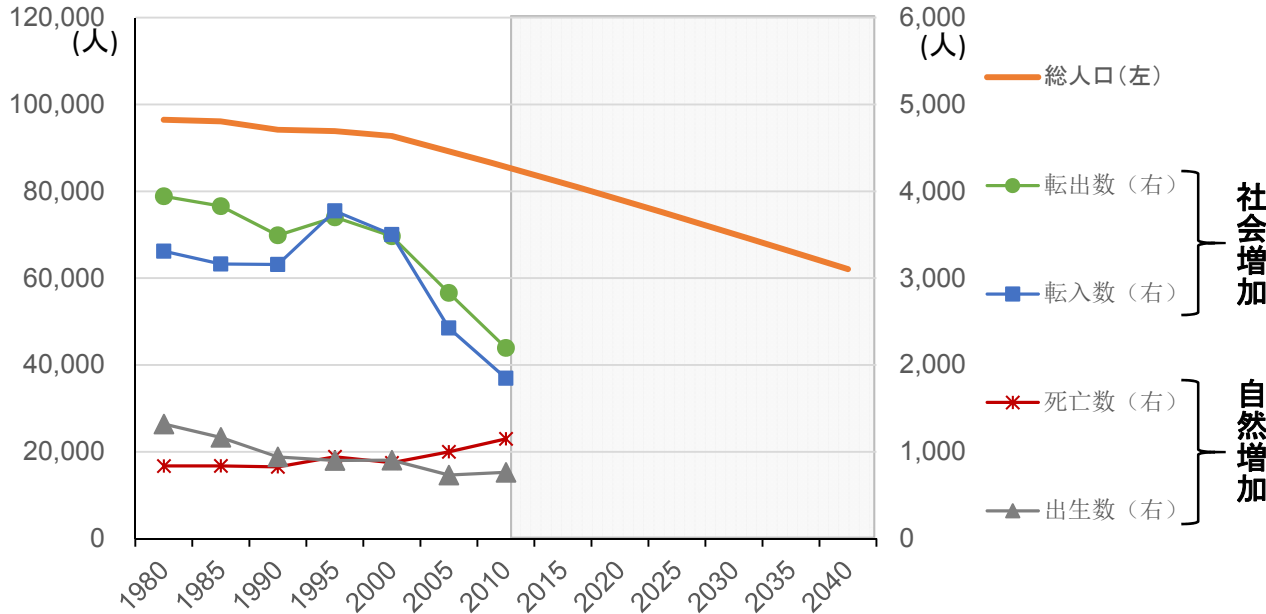
1. 2015年以降、生産年齢人口が総人口の半分を割る。
2. 2040年代以降、生産年齢人口と高齢者人口の比が、ほぼ1対1になる。

年	1980	1990	2000	2010	2020	2030	2040
高齢者サポート率	4.17	3.23	2.36	1.89	1.43	1.29	1.14
合計(高齢+若年)サポート率	1.33	1.30	1.23	1.14	0.96	0.91	0.83

高齢者サポート率 = 生産年齢人口 ÷ 高齢者人口
 合計サポート率 = 生産年齢人口 ÷ (高齢者人口 + 若年人口)

3. 人口減少の要因

豊岡市：総人口・出生数、死亡数、転入数、転出数の推移(1980～2040年)



● 社会増加
1990年代後半を除いて、転出超過(社会減少)が続いている。

● 自然増加
かつては出生数が死亡数を上回っていた(自然増加)。近年の人口高齢化進行によって高齢者死亡数が増加する一方、出産適齢女性の減少によって出生数が減少。このためここ10年、自然減少が続いている。

出生数 = 出生率 × 出産女性数

出生率の低下要因

- ① 未婚率の上昇
- ② 夫婦が儲ける子供数の減少

出産女性数の減少

- ① 少子化による適齢女性数減少
- ② 転出超過

スライド6 & 7に示す通り、出生率は全国・兵庫平均より高く比較的安定して推移していることから、出生力は比較的保たれており、出生数減少は、主に出産女性数の減少によるものと考えられる。

豊岡市	(人)						
年	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010
総人口	96,448	96,086	94,163	93,859	92,752	89,208	85,592
出生数	1,320	1,166	941	900	903	732	763
死亡数	837	838	827	943	874	1,000	1,149
転入数	3,310	3,162	3,157	3,773	3,501	2,424	1,847
転出数	3,943	3,829	3,493	3,700	3,482	2,830	2,197
自然増加	483	328	114	-43	29	-268	-386
社会増加	-633	-667	-336	73	19	-406	-350

(注) 合併(2005年)前の数値は、旧市及び町外への移動のため、現豊岡市間の移動数を含んでいる。

(出所) 総務省統計局「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所(2013年3月)

ポイント

豊岡市の人口減少要因は、現在、自然減と社会減の影響がほぼ均衡している状態。その背景にあるのは、少子化で出産適齢期の女性数が減少していることに加えて、結婚期の若者の多くを転出超過によって失っていることである。

4. 出生力の推移

合計特殊出生率の推移

	1985	1990	1995	2000	2005	2010
豊岡市	2.08	1.82	1.75	1.85	1.63	1.94
香美町	2.35	2.00	2.09	1.78	1.72	1.84
新温泉町	2.35	2.05	2.17	1.90	1.80	1.76
養父市	2.07	2.11	1.90	1.86	1.85	1.73
朝来町	2.14	1.95	1.80	1.84	1.68	1.72
但馬	2.14	1.92	1.85	1.84	1.69	1.84
兵庫県	1.75	1.53	1.41	1.38	1.25	1.41
全国	1.76	1.54	1.42	1.36	1.26	1.39

- 合計特殊出生率は、全国・兵庫平均に比べて高い水準で推移している。
- この出生率における豊岡市と全国・兵庫平均の差は、下段表「第3子以上が総出生数に占める割合」が示すように、子供を儲ける夫婦の出生力の高さによるものと考えられる。

(出所)兵庫県(2014)『平成25年保健統計年報』より、国勢調査を基にしたデータ

豊岡市：出産順位別出生数

年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
第1子	335	352	314	339	315	323	287	304	287
第2子	286	301	272	288	261	281	256	281	263
第3子	96	121	102	113	109	132	113	129	99
第4子	12	18	19	18	29	25	29	20	17
第5子	3	2	5	5	3	6	5	3	6
第6子以上	0	3	0	1	0	2	0	0	5
合計	732	797	712	764	717	769	690	737	677

(人)

第3子以上が総出生数に占める割合

年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
豊岡市	15.2%	18.1%	17.7%	17.9%	19.7%	21.5%	21.3%	20.6%	18.8%
兵庫県	14.4%	14.4%	14.9%	15.8%	15.6%	15.6%	15.7%	16.1%	16.2%
全国	14.2%	14.6%	15.3%	15.7%	15.6%	16.0%	16.4%	16.4%	16.4%

(出所)兵庫県『保健統計年報』(平成17年～平成25年版より)

5. 出産女性数の推移

豊岡市:母の年齢別出生数(2013年)

	総数	19歳以下	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45歳以上
出生数(人)	677	9	62	204	245	123	32	2
総数に占める割合	100%	1.3%	9.2%	30.1%	36.2%	18.2%	4.7%	0.3%

(出所)兵庫県『保健統計年報』(平成17年～平成25年版より)

豊岡市:出産年齢女性数の推移

(人)

年	1980	1990	2000	2010	2020	2030	2040	累積増加率	
								1980-2010	2010-2040
25-34歳	6,927	5,281	5,362	4,213	3,170	3,284	2,872	-39.2%	-31.8%
15-49歳	22,417	20,726	18,604	15,386	13,110	11,101	9,808	-31.4%	-36.3%

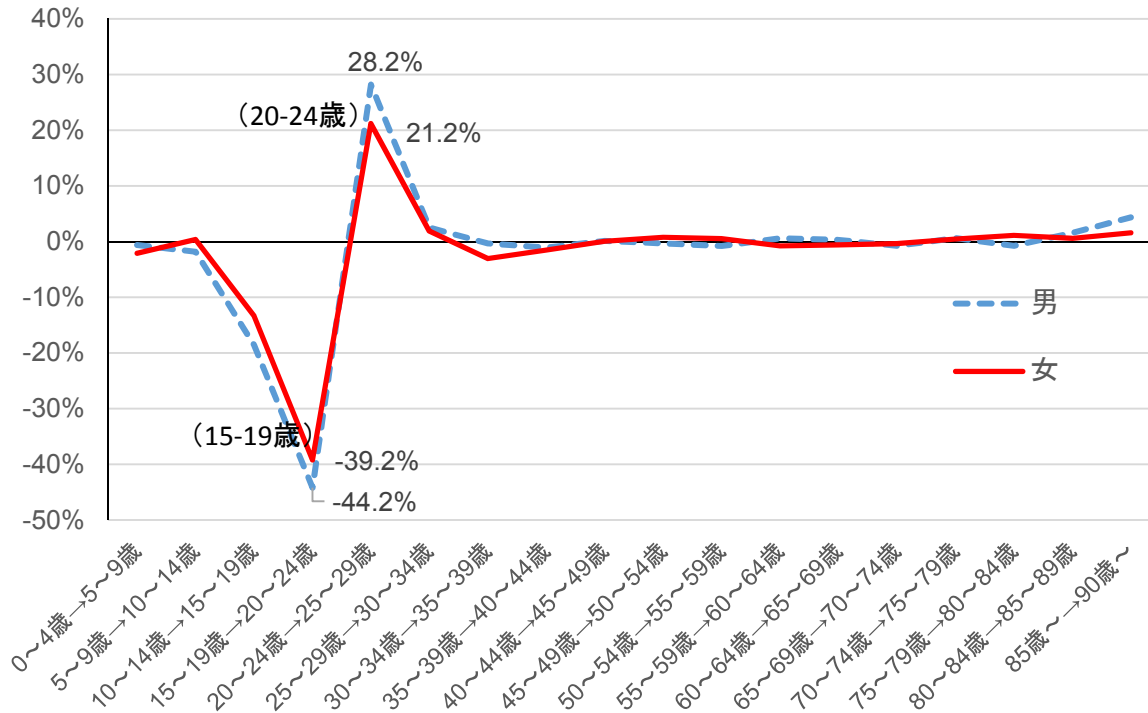
(出所)総務省統計局「国勢調査」, 国立社会保障・人口問題研究所(2013年3月)

- 豊岡市の赤ちゃんの約7割が、25～34歳の母親から生まれる。
- 豊岡市のお産年齢女性数の減少は著しく、過去30年間25～34歳で39%、15～49歳で31%減少。今後2010～40年の間、それぞれ32%、36%の減少が見込まれている。

(注) 推計期間(2010～40年)において25～34歳の減少幅が縮小しているのは、同推計を作成した社人研が、長期的に純移動率が低下収束すると仮定しているためと考えられる。

6-1. 純移動の特徴

豊岡市：年齢性別・純移動率（2005→2010年）



- 男女とも進学期(15～19歳)に大きな転出超過、就職期(20～24歳)に大きな転入超過となっている。
- 男女とも10代後半に転出超過した分の約3割が20代の転入超過によって回復される。その際の回復率は、若干男性のほうが高い。

豊岡市：年齢性別・純移動数（2005年→2010年）

(人)

	0～4 → 5～9	5～9 → 10～14	10～14 → 15～19	15～19 → 20～24	20～24 → 25～29	25～29 → 30～34	30～34 → 35～39	35～39 → 40～44	40～44 → 45～49	45～49 → 50～54	50～54 → 55～59	55～59 → 60～64	60～64 → 65～69	65～69 → 70～74	70～74 → 75～79	75～79 → 80～84	80～84 → 85～89	85～ → 90～	合計
男	-12	-41	-433	-996	438	59	-8	-27	4	-9	-24	22	10	-19	17	-16	20	38	-979
女	-38	8	-307	-851	345	42	-85	-39	2	22	17	-27	-18	-10	15	32	13	38	-841

(出所)内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局提供CD-ROM、国勢調査データ

6-2. 純移動の特徴

豊岡市：地域別移動数(2005年→2010年)

(人)

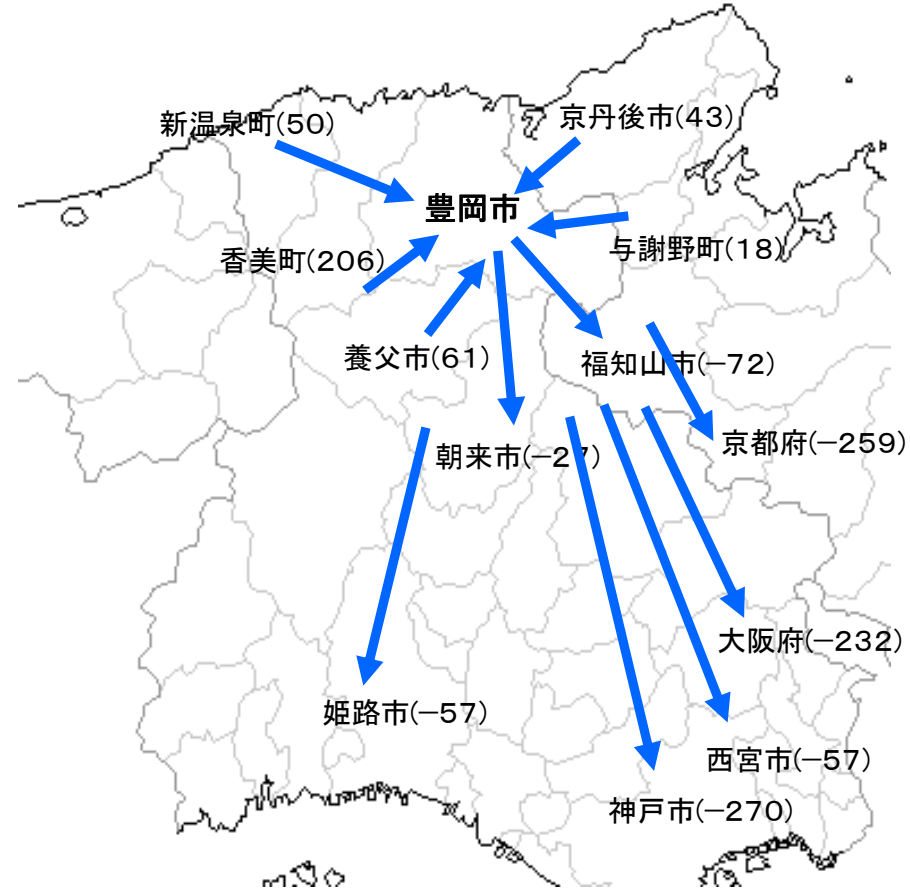
	男(転入)
転入総数	2640
県内他市区町村から	1229
神戸市	246
養父市	143
香美町	137
姫路市	121
京丹後市	83
他県から	1315
大阪府	367
京都府	305
東京都	66
鳥取県	54
滋賀県	48
国外から	96

	女(転入)
転入総数	2728
県内他市区町村から	1266
養父市	203
神戸市	200
香美町	180
京丹後市	115
朝来市	111
他県から	1196
大阪府	351
京都府	316
東京都	52
鳥取県	42
岡山県	42
転入 国外から	266

	男(転出)
転出総数	3103
県内他市区町村へ	1287
神戸市	328
姫路市	161
養父市	116
朝来市	95
西宮市	67
他県へ	1816
大阪府	454
京都府	418
滋賀県	94
岡山県	82
鳥取県	77

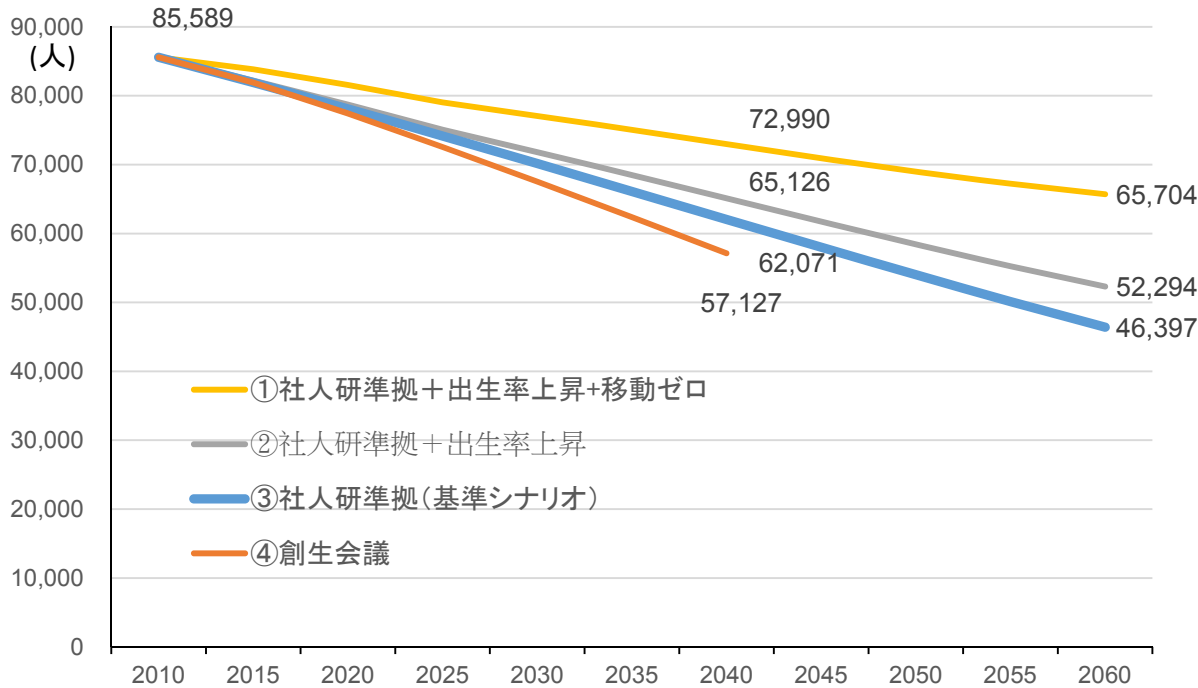
	女(転出)
転出総数	3168
県内他市区町村へ	1433
神戸市	388
養父市	169
朝来市	124
西宮市	114
姫路市	113
転出 他県へ	1735
大阪府	496
京都府	462
岡山県	71
滋賀県	61
奈良県	57

- 転出超過は、ほぼ全て他県への移動によるもの。
- 男女とも転入元・転出先は、関西圏の都市部が多い。進学に合わせて豊岡市を離れ、就職を機に戻る者もいるが、そのまま都市部に定着しているものと考えられる。



7. 総人口推計シミュレーション

豊岡市: 総人口推計シミュレーション(2010~2060年)



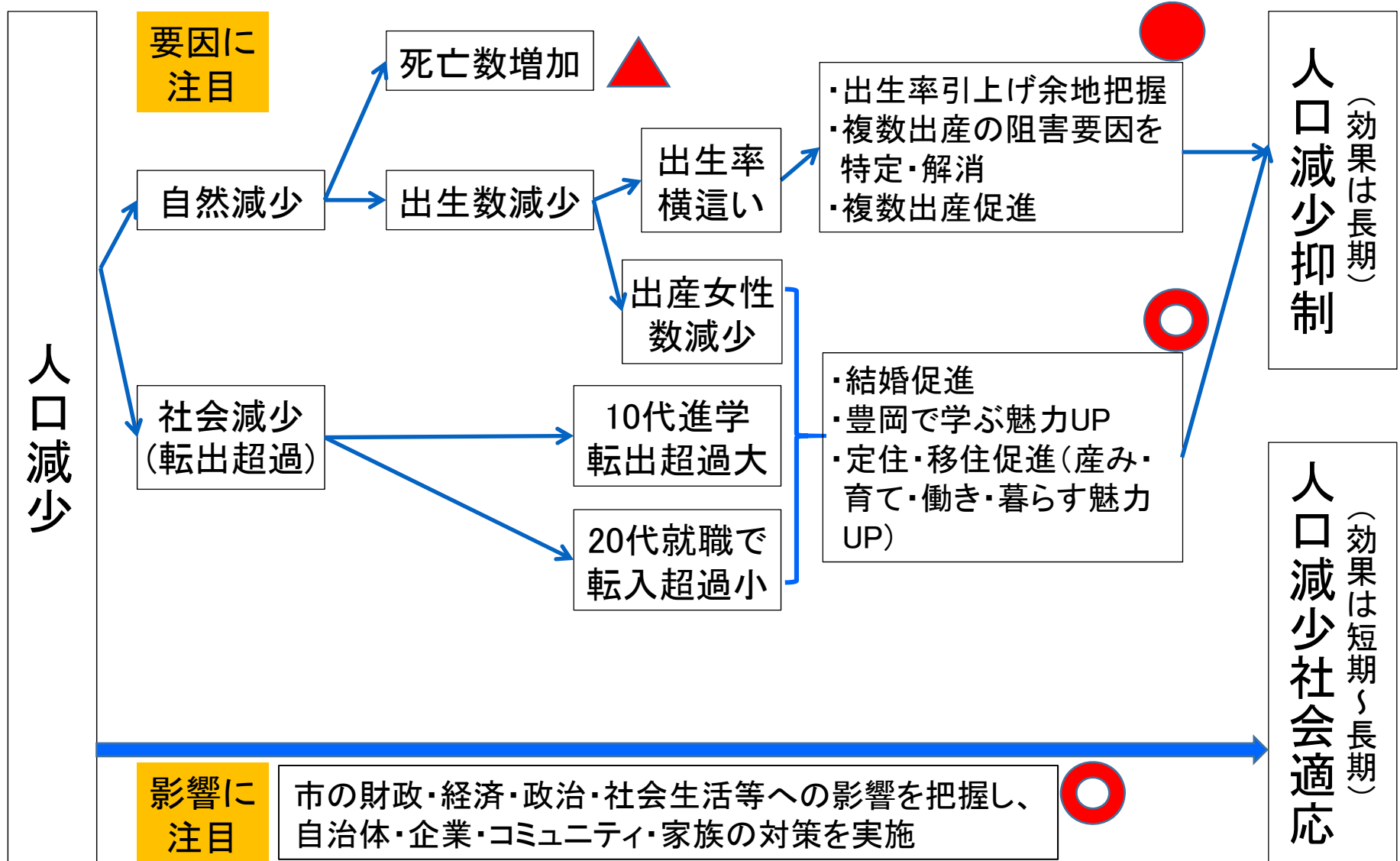
出所: 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局提供CD-ROMIに基づいて作成

- 2010-2040年の間に、出生率・純移動率とも現状維持を仮定する④創生会議シナリオで最も大きな人口減少が見込まれる。(約2.8万人減、累積-33%)
- 出生率が人口置換水準(2.1人)にまで回復し、純移動率ゼロを仮定する①シナリオで最も小さな人口減少。(約1.3万人減、累積-15%)

ポイント

1. 見通せる将来において、シナリオによって程度の差こそあれ、人口は確実に減少する。
2. 対策を講じる際に出生率上昇と転出超過減少の人口減少抑制効果を比べた場合、転出超過減少のほうがその効果が大きい。

8-1. 人口減少対策の考え方



人口の将来展望・・・将来の豊岡市の街・暮らしのあり方

- 人口高齢化対策は「総力戦」
- 人口減少のトレンド・影響をデータで正確かつ現実的に把握する
- 対策は早ければ早いほど効果がある
- 長期的かつ総合的な視点から有効な施策・事業を迅速に実施する
- 新たな費用は、「将来世代に負担のツケを回さない」の方針の下、既存事業の見直し、アセットマネジメントの推進によって対応する
- 「選択と集中」の考え方を徹底する

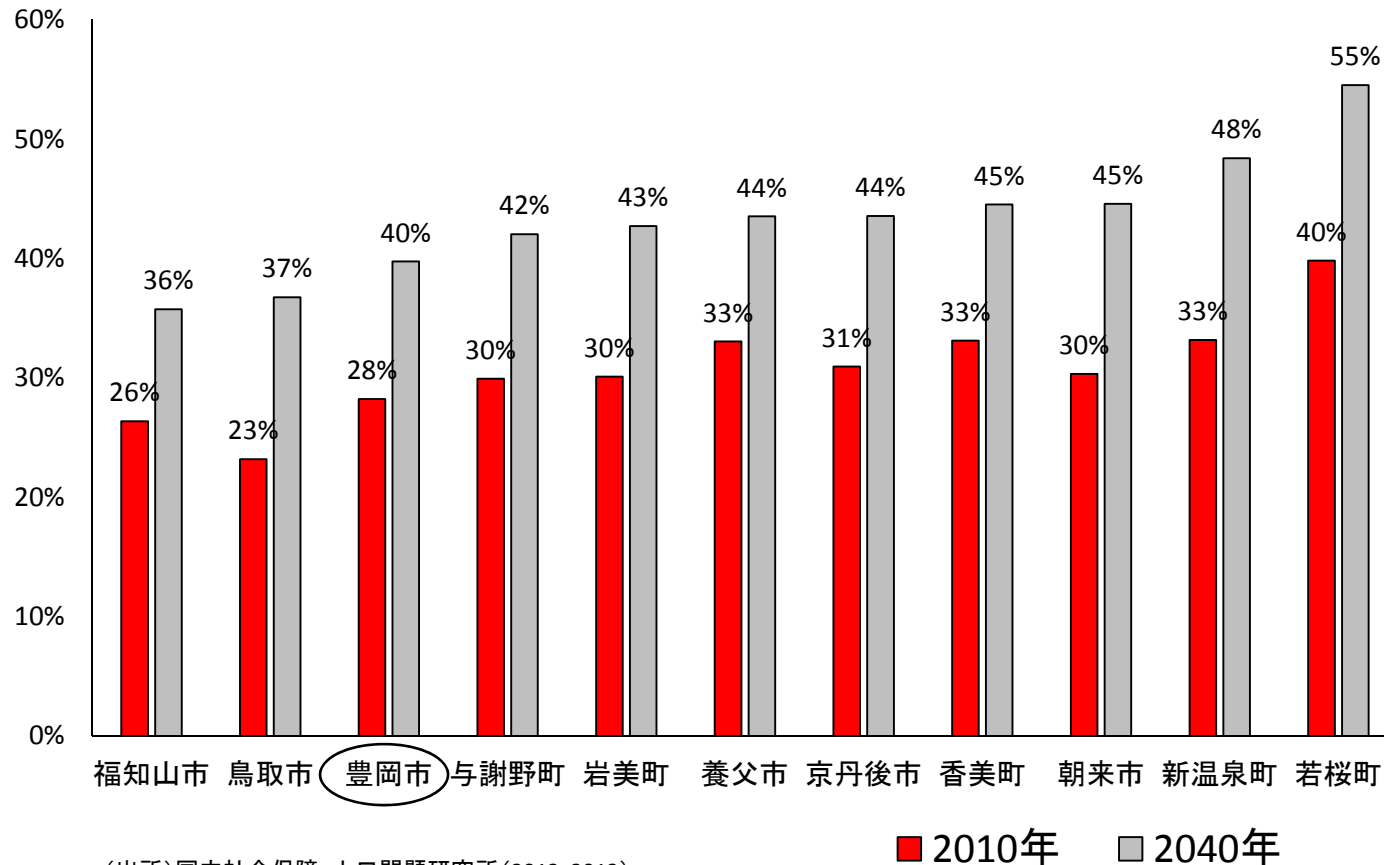
注)豊岡市の「たたき台」とするため、静岡県牧之原市「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(2015年2月)より引用。一部中嶋が加筆・修正。

参考：周辺自治体との比較

1. 地域中では「少し若い」豊岡市

市町村別・高齢者率

(65歳以上の高齢者が総人口に占める割合：2010年、2040年)

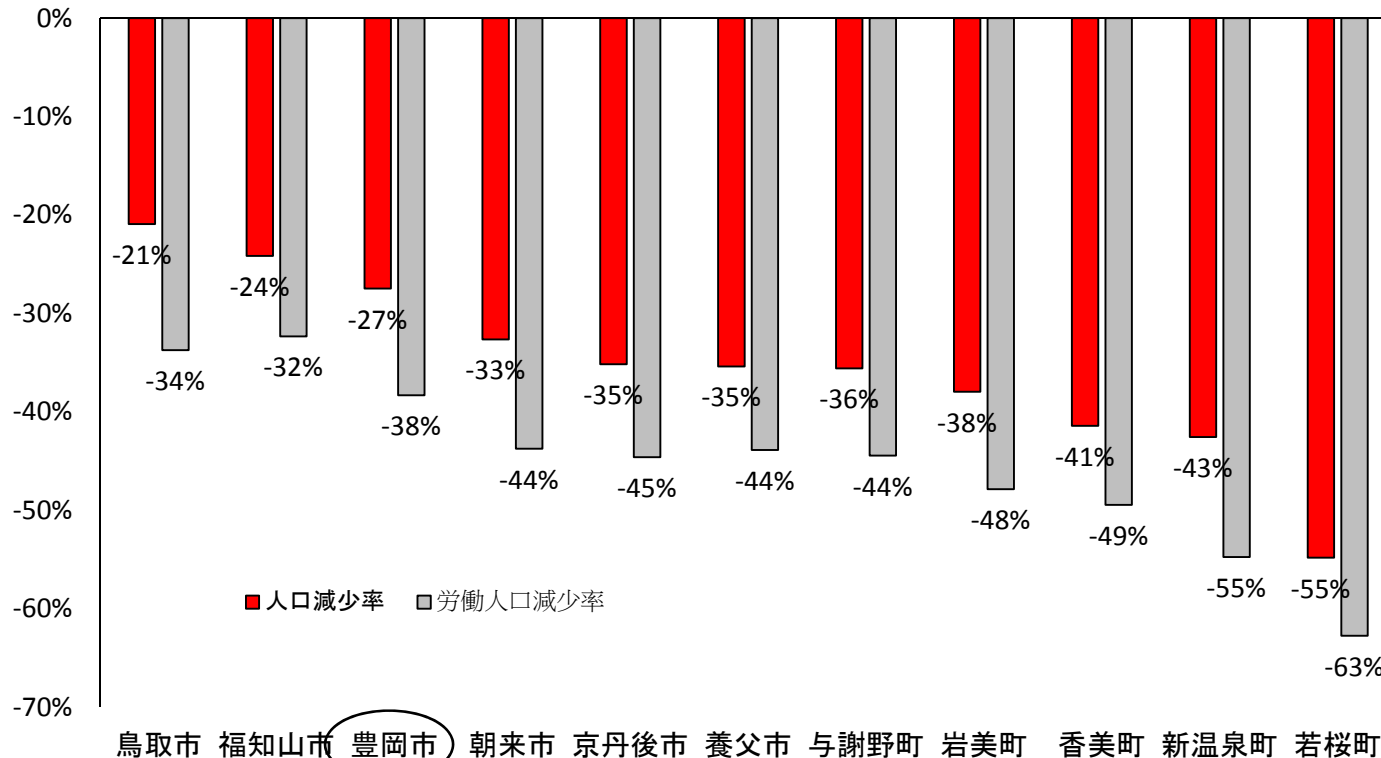


	2010年	2040年
日本全国	23.0%	36.1%
兵庫県	23.1%	36.4%
京都府	23.4%	36.4%
鳥取県	26.4%	38.2%
但馬地域	30.3%	42.3%

(出所) 国立社会保障・人口問題研究所(2012, 2013)

2. 地域中では人口・労働減少も「小さ目」の豊岡市

市町村別・人口と労働人口(20-64歳)の減少率
(2010-40年期間の累積減少率)



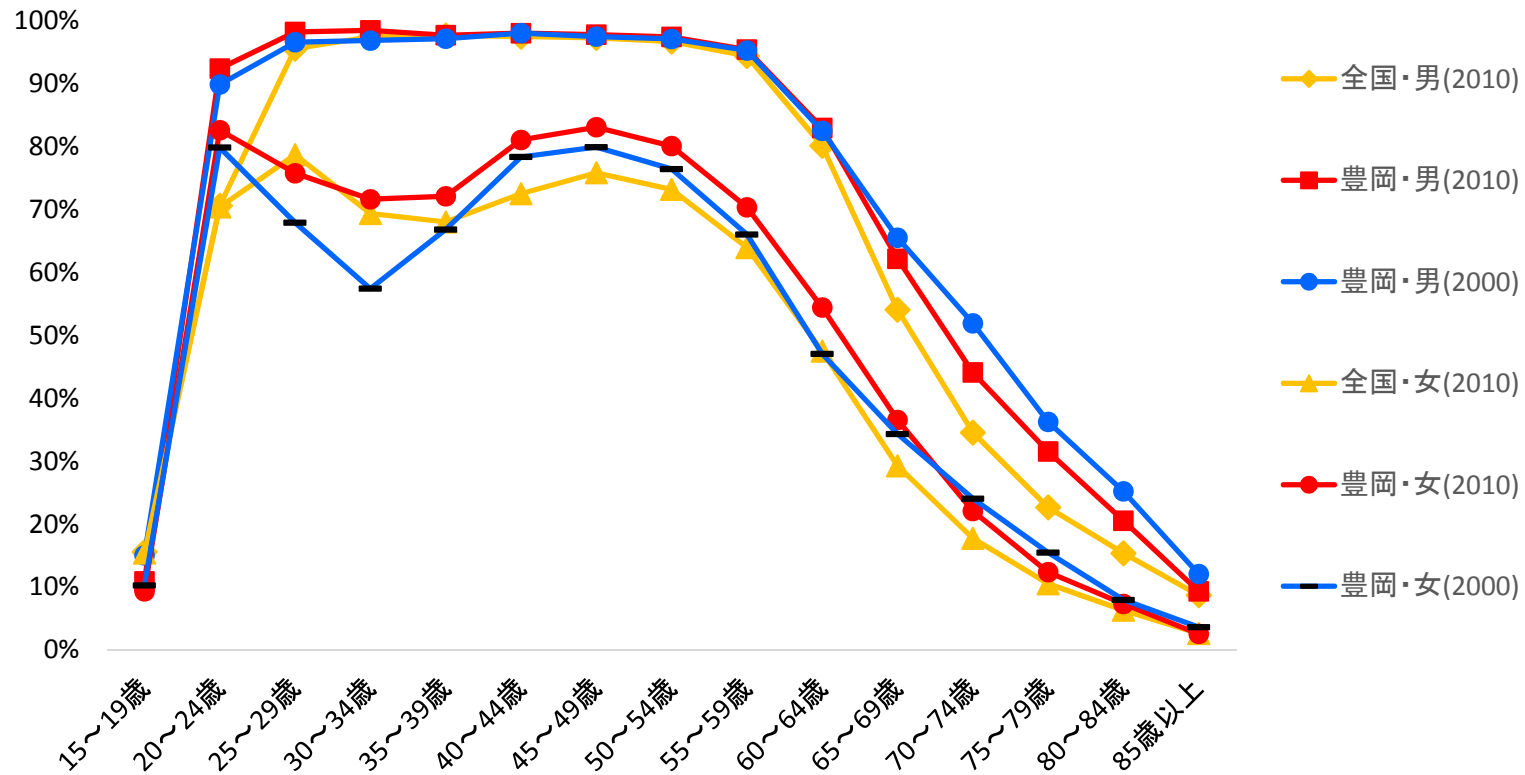
	人口減少率	労働人口減少率
日本全国	-16.2%	-28.7%
京都府	-15.6%	-28.1%
兵庫県	-16.4%	-28.7%
鳥取県	-25.1%	-35.9%
但馬地域	-32.4%	-42.7%

(出所)国立社会保障・人口問題研究所(2012, 2013)

3-1. 全国平均に比べて豊岡市女性の就労率は高い

年齢性別・労働参加率：全国平均 vs 豊岡市

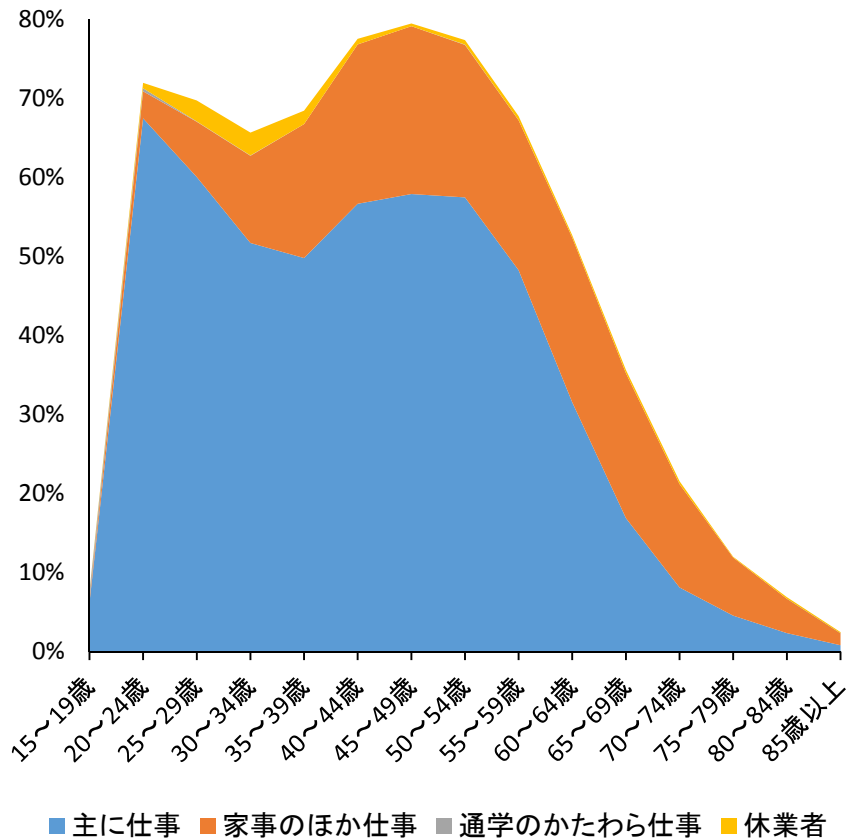
(2000年、2010年)



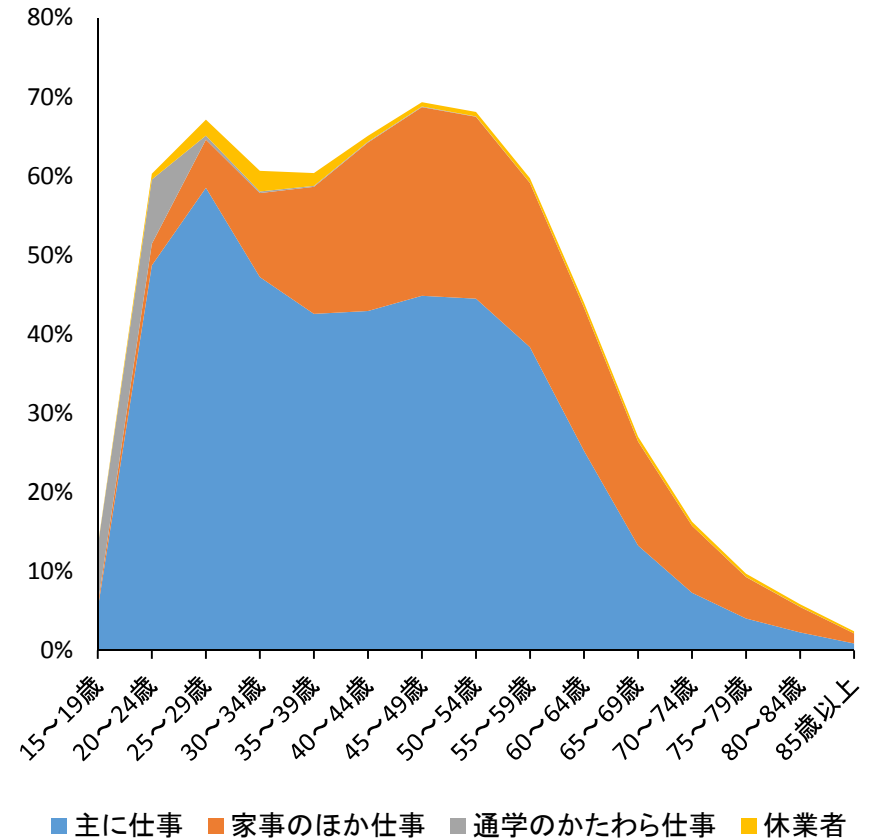
(出所)総務省統計局 2010年国勢調査・2000年国勢調査

3-2. 全国平均に比べて豊岡市女性の就労率は高い

年齢別・女性労働参加率：豊岡市(2010年)



年齢別・女性労働参加率：全国平均(2010年)



(出所)総務省統計局 2010年国勢調査

4. 豊岡市は、近隣市町に比べて20－24歳の女性純流入が多い。

